

令和4年度決算 予算決算委員会資料 上下水道局

富山市水道事業会計
富山市工業用水道事業会計
富山市公共下水道事業会計

目次

- 1 令和3年度決算に関する予算決算委員会の要望事項に
対する処置状況 1頁
- 2 令和3年度決算に関する監査委員の決算審査意見に
対する処置状況 2頁
- 3 予算決算委員会出席者名簿 7頁

様式2 令和3年度決算に関する予算決算委員会の要望事項に対する処置状況

| 前年度の要望事項 | 処 置 状 況 |
|---|---------|
| <p>【水道事業会計】 【工業用水道事業会計】 【公共下水道事業会計】</p> <p>要望事項なし</p> | |

様式3 令和3年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

| 前年度の意見 | 処置状況 |
|---|---|
| <p>【水道事業会計】</p> <p>(1) 第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンについて</p> <p>第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンの前期計画(平成29年度～令和3年度)においては、信頼性の高い配水システムの構築や危機管理体制の強化を最重要課題と位置付け、その進捗状況は、一部施策で目標値を下回る結果となったものの、概ね順調に推移しており、適正な事業運営に努めた成果が認められる。</p> <p>しかしながら、地方公営企業法施行規則の改正に伴い、令和3年度の決算から決算附属書類である事業報告書に記載されることになった経営指標に関する事項においては、経営の健全性を示す経常収支比率等が下降傾向にあるとともに、施設の老朽化を示す管路経年化率等については、連年、上昇が続いていることが示されており、今後もこれらの指標の推移には一層の注意を払っていく必要がある。</p> <p>ビジョンの基本理念の実現に向けて、新たに始まる後期計画(令和4年度～令和8年度)においても、設定する目標値や総務省の示す各種指標を用いた経営状況の把握に努め、計画の進捗管理を行いながら、各種施策が着実に実行されるよう一層努力されたい。</p> | <p>第2次ビジョンでは、3会計あわせて全38項目の具体的な指標を設定し、計画の進捗管理を年度毎に実施しております。</p> <p>このうち、経営方針に基づく各施策の成果目標として水道事業では配水幹線の耐震化率など3項目、下水道事業でも水洗化率など3項目の計6項目の指標を設定しております。</p> <p>水道事業については、物価高騰による経費増の影響を踏まえて、後期ビジョンにおける成果目標を一部見直したことから、令和4年度の事業については、概ね順調に進捗しているものと考えておりますが、今後も材料費や人件費の高騰による工事価格の上昇が想定されることから、これまで以上に目標達成に向けた工夫が必要になると考えております。</p> <p>また、残りの32項目については、目標値を定めるものではありませんが、①経営の健全性や効率性②資産の健全性を表す指標として、総務省が示したものであり、類似団体との比較や経年比較することが可能であるものです。</p> <p>なお、他団体の数値を国においてとりまとめ中のため、現段階で比較はできませんが、水道事業について前年度と比較すると、黒字は確保しているものの、施設の老朽化が進み、厳しい経営状況となっております。</p> <p>今後とも、これらの指標を用いながら、経営状況や課題を的確に把握し、ビジョンに位置付けた施策を着実に実施できるよう、適正な事業運営に努めてまいります。</p> |

| 前年度の意見 | 処置状況 |
|---|--|
| <p>(2) 今後の企業経営について</p> <p>令和3年度の決算は、前年度に引き続き黒字となったものの収益は減少し、資本的収支を含めて考えると、収益的収支で資本的収支不足額を補填した後の損益勘定留保資金残高は、前年度に比べて減少しており、資金面での懸念は継続している。</p> <p>さらに、施設の建設改良事業については、今後も多額の資金が必要であり、依然として資金繰りは厳しい状況にある。</p> <p>また、人口減少等により水需要の減少傾向が続く中で、現状以上の利益を確保して事業を存続させていくためには、収益、費用の両面において一層の取組みが求められる。</p> <p>このような状況で、投資においては、将来を見据えたうえでの回収可能な額と投資額との採算を考慮する視点を持ち、資本的収支が逼迫する中でも事業を維持していくための利益を確保していくことが必要である。</p> <p>水道事業は、市民生活に最も密接したライフラインの一つであり、自然災害への備えに加え、施設の老朽化が進行していることに対する施策の充実も重要である。</p> <p>昨今の厳しい状況下において、黒字を維持する経営努力は一定程度認められるところであるが、今後は、さらに厳しい環境になることを意識し、総務省から示された各種指標にも注意を払いながら、健全な財政状態を維持するためのあらゆる努力を模索されたい。</p> | <p>今後の企業経営にあたっては、水道施設の維持管理や計画的な更新など、将来にわたって安定的かつ持続的に運営していくため、水道基盤の強化が必要不可欠であると考えております。</p> <p>このことから、令和4年度において見直しを行った第2次ビジョンに基づき、引き続き、徹底した事業の効率化や経営の合理化、事業の平準化等に取り組むとともに、今後の経済動向を踏まえた適正な料金水準の検討も視野に入れ、健全で持続可能な財政運営を行ってまいります。</p> |

様式3 令和3年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

| 前年度の意見 | 処置状況 |
|---|--|
| <p>【工業用水道事業会計】</p> <p>(1) 今後の企業経営について 責任水量制を採用していることもあって黒字決算を続けており、安定的な企業経営がなされている。</p> <p>今後も契約企業との情報共有や協議を重ね、施設の老朽化対策である予防保全型の維持修繕に努めるとともに、将来の大規模な施設の改修・改築に向けた取組みについて計画的に進め、引き続き健全で持続可能な事業の推進を図られたい。</p> | <p>施設の老朽化対策として、予防保全型のきめ細やかな維持修繕を徹底することで、トータルコストの縮減に努め、第2次ビジョンの期間中においては、施設の改築等は行わず、予防保全型の維持修繕等により対応することとしております。</p> <p>しかしながら、将来的には大規模な施設更新が必要となることから、第2次ビジョン期間において、契約企業の将来水需要や、設備投資を含む事業展望などの意向を確認しながら、更新に向けた検討を進めることとしております。</p> <p>令和4年度は施設ごとの劣化調査の結果や更新期限などについて、契約企業へ説明を行ったところであり、また、更新に必要な概算事業費について、検討を始めたところであります。</p> <p>令和5年度以降には、引き続き、材料費や人件費等の、急激な物価上昇を考慮した概算事業費の精査を進めるとともに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①民間活力を利用した効果的な更新手法 ②国の補助制度等の活用による財源の確保 ③契約企業の費用負担のあり方 <p>などについても検討を進め、大規模更新に向けた準備を、着実に進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、施設更新の検討とは別に、経済産業省の要請に基づき、災害発生時における契約企業の生産活動の維持を図るため、令和5年度から業務継続計画の策定に着手することとしており、これにより、一層の安定供給を図ってまいりたいと考えております。</p> |

様式3 令和3年度決算に関する監査委員の決算審査意見に対する処置状況

| 前年度の意見 | 処置状況 | | | | | | | | |
|--|--|-------|-------|------|-----|------|-------|-------|-------|
| <p>【公共下水道事業会計】</p> <p>(1) 下水道普及促進活動について 令和3年度の水洗化率は、96.5%と前年度に比べ0.2ポイント上昇しており、接続率においても、96.5%と前年度に比べ0.2ポイント上昇している。</p> <p>これは、上下水道局の普及促進活動の強化によるものであるが、接続率の向上を図ることは、安定した事業収益の確保、ひいては経営基盤の強化につながることから、引き続き普及促進活動に取り組まれたい。</p> <p>(2) 今後の企業経営について 令和3年度の決算は、下水道使用料収入が減少したものの、企業債利息などの費用も減少したことから、前年度に引き続き黒字となった。</p> <p>しかし、企業債の毎年の償還額は依然として高水準にあり、資本的収支不足額を補填した後の損益勘定留保資金残高は前年度と比べ増となったものの、資金繰りは厳しい状況にある。</p> <p>下水道事業においては、今後とも総務省から示された各種指標を参考にしながら、資本的支出が企業経営を圧迫しないよう、事業費の平準化を図り、毎年度計画的に事業に取り組むよう努められた</p> | <p>令和4年度の水洗化率については、</p> <table border="1" data-bbox="774 425 1428 560"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>対前年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水洗化率</td> <td>96.5%</td> <td>96.7%</td> <td>+0.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>となっております。</p> <p>水洗化率の向上に向けた取組みとしましては、過去の訪問時のアンケートで接続見込みが高いと区分した未接続世帯について、普及推進員が重点的に戸別訪問を行いました。また、接続意思が低い未接続世帯へは啓発チラシの郵送を行いました。</p> <p>今後とも、各戸の接続見込みや未接続理由に応じた、効果的・効率的な普及活動に取り組む、水洗化率の向上に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>今後、人口減少等による下水道使用料収入の減少及び、電気料金の高騰による動力費の上昇や労務単価の上昇等による維持管理費の増加が見込まれますが、施設の耐震化や老朽化対策は喫緊の課題となっております。</p> <p>このことについては、第2次ビジョンでは、投資的経費が企業経営を圧迫しないよう、事業費の平準化を図ることとしており、引き続き、毎年度計画的に事業の推進に取り組んでまいります。</p> <p>加えて、AIシステムなどを活用した新たな技術の調査・研究に継続的に取り組むとともに、実用性が高い技術の導入を図ることに</p> | | R3年度 | R4年度 | 対前年 | 水洗化率 | 96.5% | 96.7% | +0.2% |
| | R3年度 | R4年度 | 対前年 | | | | | | |
| 水洗化率 | 96.5% | 96.7% | +0.2% | | | | | | |

| 前年度の意見 | 処 置 状 況 |
|--|--|
| <p>い。</p> <p>また、快適で衛生的な生活環境の充実を図り、効果的かつ実現性の高い新技術の調査や研究に取り組み、費用節減にも一層注力するなど、経営基盤の強化に努められたい。</p> | <p>より、効率的かつ効果的に事業を推進してまいりたいと考えております。</p> <p>また、資金の確保として、経費の節減や国の支援制度の有効活用、発電事業への消化ガスの売却収入の確保などを行い、引き続き、経営基盤の強化を図ってまいります。</p> |

予算決算委員会出席者名簿

| 所 属 | 出 席 者 名 | | | | | |
|-------------------|---------|-------|------------|------------------|-----|-------------------|
| | 特別職・部長級 | | 部次長級 | | 課長級 | |
| | 職 | 氏 名 | 職 | 氏 名 | 職 | 氏 名 |
| 上下水道局 | 局長 | 酒井 正道 | 次長 | 森 俊彦 | | |
| | | | 次長 | 山寄 明彦 | | |
| | | | 参事 | 高尾 輝彦 (建設部次長) | | |
| | | | 参事 | 五十嵐 健治 | | |
| 経営企画課 | | | 参事 (課長) | 井村 孝志 | | |
| | | | | | 主幹 | 山本 哲弘 |
| 契約出納課 | | | | | 課長 | 谷島 洋 |
| 料金課 | | | | | 課長 | 佐伯 徳生 |
| 給排水 サービス課 | | | 参事 (課長) | 金山 英樹 | | |
| 水道課 | | | | | 課長 | 帳山 誠志 |
| 下水道課 | | | 参事 (課長) | 五十嵐 進 | | |
| | | | | | 主幹 | 経澤 陽一 (河川整備課長) |
| 上下水道施設 管理センター | | | | | 所長 | 駒見 潤 |
| 東上下水道 サービスセンター | | | | | 所長 | 田辺 茂樹 |
| 西上下水道 サービスセンター | | | | | 所長 | 村田 友康 |
| 流杉浄水場 | | | | | 場長 | 大場 角栄 |
| 浜黒崎 浄化センター | | | | | 場長 | 中橋 亨 |
| 水橋 浄化センター | | | | | 所長 | 竹島 寛文 |